

日本産業衛生学会

# 関東地方会ニュース

(題字 高田 昴 筆)

発行所／日本産業衛生学会関東地方会事務局・〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1

千葉大学大学院医学研究院環境労働衛生学内・TEL(043)226-2065・FAX(043)226-2066・発行責任者／能川 浩二



旅の途中で

—新潟県十日町市にて—

(写真提供 宮越雄一)

## 学会の活性化に向けて

日本産業衛生学会関東地方会 会長 能川浩二

(千葉大学大学院医学研究院環境労働衛生学)



清水英佑教授が理事長に選任された後を受けて関東地方会長に就任してから5ヶ月が経過しました。3千名を超える会員を有する関東地方会長の重責をあらためて感じています。産業衛生学会の特徴と

して、医師、保健師、看護師、衛生管理者、理学・工学出身の技術者、人事担当者など多様な職種の会員から構成されていること、学術研究のみならず現場における実践活動としての実学も重視されることが挙げられると思います。

学会の活性化のためには会員の多様なニーズに応える学会活動を行うことが基本であることは言うまでもありません。そのための方策として、産業医部会、産業看護部会、産業技術部会をはじめ

各種の研究会が立ち上げられ活発な活動を行っています。経済活動も多様化し、これに応じる新たな研究会が次々と立ち上げられるでしょう。学術研究は進歩するほど細分化していきます。人間から臓器、細胞へ、今は遺伝子に研究の焦点が当てられています。このように、研究対象も研究内容も現場の実践活動もどんどん細分化していった時の産業保健はどんな状況になるのでしょうか？産業衛生学会という名の下でまとまった活動が可能でしょうか？事実、産業精神保健に関する学会、微量元素に関する学会などが次々に設立されて来ています。このようなある課題に特化した学会、研究会はこれからも設立されていくでしょう。統合から分化へ、分化から統合へという流れを考えながら産業衛生学会の存在意義を常に明らかにしていく努力が重要と考えています。

## 「新年を迎えて」

関東産業医部会 会長 三好裕司  
(明治安田生命)



産業医部会は1992年創設以来、次第に充実した部会に成長しています。

「産業医・産業看護全国協議会」、産業医活動に関する各種研修会、「産業医プロフェッ

ショナルコース」の開催、部会報の発行を基本事業とし、さらに、日本産業衛生学会で「産業医部会フォーラム」を開いたり、異業種とのネットワークを緊密にするため、産業衛生技術部会、産業看護部会と合同セミナーを開催したりしています。

「産業医活動をする人のために」という本を産業医学振興財団より2005年10月に発刊しました。2006年度は関東産業医部会が中心になって、この本をテーマにした産業医研修会の開催を考えています。関東地方会の皆様のお役に立てるものと思えます。

関東産業医部会は部会内最大の組織です。未入会の地方会員の方は、今年こそ産業医部会にご入会のうえ、関東産業医部会の存在感を高めていただきたく期待いたします。

連絡先: 日本産業衛生学会産業医部会事務局(産業医実務研修センター内)

TEL: 093-691-7171 FAX: 093-603-2155

## 「新年を迎えて」

関東産業看護部会 会長 神保恵子  
(NTT 東日本)



新年明けましておめでとうございます。関東地方会の部会になって5年、昨年日本産業衛生学会では部会になって初めて全国の産業看護職と交流する機会を得ました。こ

の“交流”すなわち“ネットワークづくり”というのが現在の関東産業看護部会の課題とするところと考えています。昨年、15年ぶりに産業看護の定義が見直されました。働く現場、働き方は異なっていますが、産業看護の役割の本質は共通です。その共通の部分をしっかり押さえて、働く人々とその組織に貢献できる活動を展開するには、小さな企業から大きな企業まで、その中で働いている看護職が連携する場が必要だと考えています。各々の持っているスキルを共有し啓発しあうようなネットワークをどのようにつくるか、そしてより現場に有意義な研修をどのように開催していくか、発足当時からのこの課題を念頭に、新たな一年を新しい気持ちで迎えたいと考えています。

## 「新年を迎えて」

関東産業衛生技術部会 会長 田中 茂  
(十文字学園女子大学)



謹んで新年の御祝詞を申し上げます。本年も本学会の皆様のご活躍とご健康を心よりお祈りいたします。

先日、坂清次先生(三菱総研)より、「誇り高い技術者になろう」(名古屋大学出版会)という本を推薦され、読む機会を得ました。そこで、「技術者はまず自分の責任を理解し、どんなケースでも倫理的に適切な判断を下せるように、スキルを高めておくことが必要だ」と教えられました。

今、日本では石綿による中皮腫等の健康被害が大きな問題となっていますが、産業衛生技術部会員のスキル(測定、分析、改善、人間工学、保護具等)を駆使して、石綿による作業員や地域住民の曝露防止などに取り組めたらと思っています。技術者は単に技術を駆使することのみで満足することなく、誇りを持って、一般の利益に反する害を避けるようにし、見えにくい人々への配慮もできるように「倫理的想像力」を拡げていくことが重要だと考えます。

今、日本では石綿による中皮腫等の健康被害が大きな問題となっていますが、産業衛生技術部会員のスキル(測定、分析、改善、人間工学、保護具等)を駆使して、石綿による作業員や地域住民の曝露防止などに取り組めたらと思っています。技術者は単に技術を駆使することのみで満足することなく、誇りを持って、一般の利益に反する害を避けるようにし、見えにくい人々への配慮もできるように「倫理的想像力」を拡げていくことが重要だと考えます。

## 第 230 回例会(一泊)および 第 49 回見学会の報告

小山 洋 (群大院医)



第 230 回例会は鈴木庄亮群馬産業保健推進センター所長を企画運営委員長として、群馬県医師会、群馬産業保健推進センター、高崎経済大学、群馬大学医師会の共催で、

2005年9月9日(金)・10日(土)の両日にわたって群馬県高崎市で開催された。今例会ではメインテーマとして「職域におけるメンタルヘルスケアと個人情報保護」を掲げた。

1日目の教育講演では、関東地方会長の能川浩二教授に座長を務めていただき、「質問紙健康チェック票 THI (Total health index) と職域メンタルヘルスケア」と題して鈴木庄亮センター長から質問紙 THI の職域における活用方法などについてご講演いただいた。懇親会に引き続き、1日目最後のプログラムであるグループ討議では参加者が6班に分かれ、高崎経済大学の岸田孝弥教授および高崎健康福祉大学の竹内一夫教授からコメントをいただきながら、「職域におけるメンタルヘルスケア・個人情報保護対策」について討議を行った。個人情報保護の具体的な対応策をめぐって多くの課題が指摘された。

2日目は、県医師会の真下延男理事と小山を座長とし、パネルディスカッション「職域におけるメンタルヘルスケアと個人情報保護」が行われた。パネリストは、精神科医である椎原康史群馬大学医学部教授、東邦亜鉛安中製錬所産業医の須藤英仁県医師会理事、およびサンデン群馬本社健康管理室の帆苅なおみ保健師で、それぞれの立場から活動事例報告や具体的な提案をいただいた。指定発言として産業看護の立場から神保恵子部会長(NTT東日本首都圏健康管理センタ)からコメントをいただいた。全体討論では、職場ごとに条件が異なるためそれぞれの職場で多様な対応策やルールづくりが求められており、情報交換のネットワークづ

くりが今後の課題として挙げられた。

第 49 回見学会は、9月9日(金)の午後に2カ所に分かれて行われた。東邦亜鉛安中製錬所では、亜鉛精錬の各工程について説明を受けた後、広い構内をバスで移動し、要所で降車して見学を行った(写真1)。最後に産業医の須藤英仁先生から安全衛生活動についてご紹介いただいた。

JR 貨物高崎機関区では、衛生管理者および産業医の石井周一先生から説明を受けながら電気機関車の定期検修の様子を視察した(写真2)。

例会の参加者数は総計115名、見学会の参加者数は81名であった。2日間を通じ、関東産業看護部会の林恵子幹事(ナショナル建材工業)をはじめ多くの方々のご協力をいただき、おかげさまで当番幹事としての役割を無事果たすことができた。関係各位に深く感謝したい。



写真 1 東邦亜鉛安中製錬所における亜鉛精錬工程(電解工程)の作業内容の説明風景

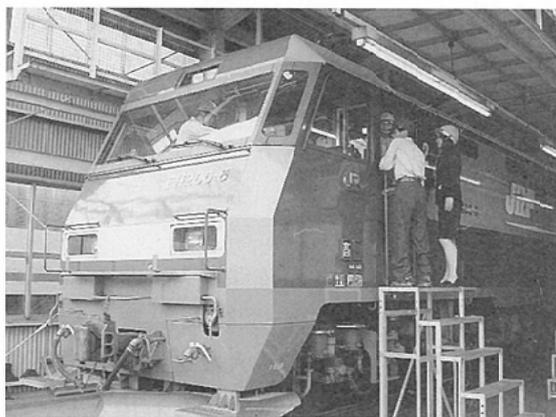


写真 2 JR 貨物高崎機関区にて新型電気機関車(EH200)の検修の様子を視察

## 第231回例会報告

廣 尚典 (アデコ)



2005年12月3日(土)、日本教育会館(一ツ橋)第一会議室において、第231回例会を開催した。参加者は255名と、予想を大きく上回る数にのぼった。プログラムは、能川

浩二地方会長のご挨拶に続き、前半が井上仁氏(厚生労働省労働衛生課)の教育講演「労働安全衛生法の改正とこれからのメンタルヘルス」(座長:田中克俊氏・北里大産業精神保健学)、後半はシンポジウム「メンタルヘルス対策における専門職の役割と連携」(座長:廣尚典)と、予定通り進行した。

教育講演では、公表されて間もない労働安全衛生法(過重労働とメンタルヘルス関係)の改正点について、関連事項を含めて詳細な解説をしていたが、それを受けて活発な質疑応答もあった。まさに時宜にかなったものであり、出席者の関心も高かったと思われる。

シンポジウムでは、上記の主題をめぐって、安藤一重氏(日本産業カウンセラー協会)に産業カウンセラーの、栗原壯一郎氏(アイシン健康保険組合)に心理相談担当者の、森崎美奈子氏(帝京平成大学)に臨床心理士の、そして畑中純子氏(NTT 東日本首都圏健康管理センタ)に産業看護職の立場から、それぞれ現状と直面している課題などを述べていただいた。その後、指定発言として、河野慶三氏(富士ゼロックス)が、活動の成果をあげるためのチーム編成と役割分担に関して、自らの経験と多くの職場の実態を踏まえた提言をされた。残念ながら、シンポジストとフロアとの意見交換の時間は取れなかったが、全体として密度の濃い内容となった。

なお、受付スペースの確保など、当番幹事の事前準備が不十分であり、大変な混雑を招いてしまった。参加者の方々に甚大なご迷惑、ご不便をおかけしたことにつき、この場をお借りし、改めてお詫びをさせていただく。併せて、多くの関係者に多大なご助力を賜ったことについても、深謝をいたしたい。

## 関東産業医部会報告

福本正勝 (航空医学研究センター)



関東産業医部会は、今まで当会の発展に尽力されました埋忠洋一先生から、三好裕司先生に会長を交代いたしました。同時に、幹事会のメンバーを一新し、2005年10月5日

(水)に第1回打合せを開催いたしました。新規メンバーの顔合せと、産業医部会と産業衛生学会関東地方会共催で行う研修会についての打合せを行いました。

日医認定産業医研修会を、2006年3月12日(日)10時30分から16時30分、慈恵医大の大学1号館3階講堂で開催することとしました(日本産業衛生学会産業看護継続教育実力アップコース単位申請予定)。内容は、「労働安全衛生法改正について」の基調講演、さらに法的側面に触れて、「健康診断」「メンタルヘルス」「復職判定」「個人情報の取扱い」についての講演といたしました。法改正を控えて、タイムリーな話題と情報提供を行うことができると準備を進めております。多くの皆様のご出席をお待ちしております。

新しくなった関東産業医部会にご支援をよろしくお願い申し上げます。幹事会メンバーは以下の通りです。三好裕司(明治安田生命健康保険組合)、大野明彦(三菱東京UFJ銀行)、西澤洋子(帝人クリエティブスタッフ)、川名一夫(万有製薬)、深澤健二(ソニー)、五味秀穂(全日本空輸)、福本正勝(航空医学研究センター)

### <関東産業医部会研修会申し込み方法>

〒144-0041 東京都大田区羽田空港 3-5-10  
ユーティリティーセンタービル4階  
財団法人 航空医学研究センター内  
日本産業衛生学会産業医研修会事務局  
TEL. 03-5756-9065 FAX. 03-5756-9071

E-mail: sanei@aeromedical.or.jp

参加希望者は全員往復はがきにて申し込みください。2006年2月10日(金)必着。締切日前でも定員になり次第締め切ります。

## 関東産業看護部会報告

森田美保子 (CRC ソリューションズ)



2005 年 4 月の個人情報保護法施行により、各々の職場では試行錯誤しながら対策を開始されたかと思えます。産業看護部会では、認識を深めるため事例や情報

交換を取り入れた研修会を 2 回にわたり企画し、2004 年に引き続き東京産業保健推進センターで実施しました。

【第 6 回研修会「個人情報保護における課題」  
2005 年 10 月 1 日(土)】

東京産業保健推進センター相談員加藤雅治先生をお招きし、個人情報保護法の経緯、安全配慮義務の捉え方の講義と参加者からの質疑応答が活発に行われました。どの職場でも 4 月から開始はしたものの、対応に苦慮する問題が多く発生している状況でした。最後に加藤先生からは「慌てて体制を整備しなくとも、社員との信頼関係を再認識し、社風と公益性を前提としたルール作りを行うことが大切」とのご指導を頂きました。

【第 7 回研修会「リスクマネジメントとしての記録のあり方について」  
2005 年 11 月 12 日(土)】

リョマホ法律事務所の岡田隆志先生をお招きして、産業の場でのリスク管理として、医療裁判や証拠としての記録のあり方と産業看護職の記録について、講義と質疑応答を行いました。この研修においては、①安全配慮義務から健康情報を職場へ報告する場合は目的内での範囲に限るというガイドラインを前もって社員に示しておくこと、②産業医がない場合の指導については特に判断やアセスメントの根拠をしっかりと記載しておくこと

など、報告や記録をルール化しておくことの重要性を再認識した研修会でした。



## 関東産業衛生技術部会報告

村田 克 (労研)



産業衛生技術部会では毎年、産業衛生技術分野に関わる研修会を時宜に応じて開催してきた。平成 17 年度からは『産業衛生技術入門』(中央労働災害防止協会発

行)をテキストとして開催することとし、第 1 回は 2005 年 4 月の東京での第 78 回日本産業衛生学会会期中に、「産業現場のリスク管理への応用」をメインタイトルとして、人間工学、毒性学、産業心理学、メンタルヘルスについての入門講座を開催した。

第 2 回の研修会は 2005 年 10 月 26 日(水)午前、広島での緑十字展会場内において、新井宏先生(川崎医療福祉大)による「障害者雇用の現状と展望」、岩崎毅先生(興研労働衛生コンサルタント事務所)による「作業環境改善の工学的対策」の 2 題の講演が行われた。新井先生は、障害者が職業に就くための社会的支援である職業リハビリテーションや障害者雇用政策について解説された。また岩崎先生は有害物の換気対策として全体換気や局所排気、プッシュプル換気などの方式の概要を説明された後、実際に現場へ適用された局所排気装置、プッシュプル型換気装置についての豊富な事例を紹介していただいた。

なお第 3 回の専門研修会は、仙台での第 13 回産業衛生技術部会大会会期中、2006 年 5 月 9 日(火)10 時から、仙台国際センター大ホールで開催される予定である。また開催予定や講演内容の詳細は、部会ホームページに随時掲載される予定。  
(<http://jsoh-ohe.umin.jp/>)



## 理事会報告より

能川浩二 (千葉大院医)

2005年9月24日(土)および12月17日(土)開催

1. 部会・研究会規程は役員任期・会計年度を定款にあわせることとなり一部変更された。また、名誉会員の条件は役員3期以上に変更した。
2. 個人情報保護管理方針が了承された。
3. 国際協力事業の具体的なルール等を作るため、国際協力小委員会を設置し、井谷・圓藤・川上・東の各理事が委員となった。
4. 作業環境測定検討委員会報告を学会ホームページと産衛誌2005年11月号に掲載する。
5. 倫理審査委員に井谷理事が就任した。
6. IT担当理事は浜口理事(主)、大久保理事(副)とした。
7. 事業推進基金の整理・運用に関する規程案が了承され総会に提案することとした。
8. 石綿問題に関する対応について、相澤副理事長を中心に広瀬・日下・甲田・東・車谷の各理事による小委員会を設置し検討することとした。仙台の第79回学会でシンポジウムを行う。
9. 第81回日本産業衛生学会は、2008年に北海道地方会が担当する。
10. 正会員数は2005年12月8日現在で7,170人であるとの報告があった。
11. 学会賞には神山宣彦氏、奨励賞には李卿氏が推薦され、了承された。

## 幹事会報告より

諏訪園靖 (千葉大院医)

宮本俊明 (新日鐵君津)

2005年9月10日(土)および12月3日(土)開催

1. 地方会幹事・監事は、2005年7月1日付で新たに委任され、全員が了承された(名簿省略)。
2. 平成18年度の例会開催を鈴木幹事(2006年6月10日:東京慈恵会医科大学)、原谷幹事(産業医学総合研究所)、坂田幹事(住友金属鹿島)に依頼。一泊例会については千葉県で開催予定。

3. 地方会ニュース編集委員は、2005年7月20日付で委任され、第13号からの担当として全員が了承された。
4. 第232回例会(山内博幹事)は2006年2月18日(土)に川崎市国際交流センターにて定員250人で開催。講演形式で「わが国における災害医療対策の現状と今後の展望」(山本光昭内閣府参事官)、「繊維状物質と健康障害」、「ナノ粒子状物質と健康障害」、「インジウム化合物の生態影響と健康管理」、「ヒ素、アンチモンの生態影響と健康管理」の各テーマ。

### おめでとうございます

中央労働災害防止協会緑十字賞

下田 哲夫 先生

((社)茨城労働基準協会連合会非常勤講師)

野崎 亘右 先生

(興研(株)非常勤取締役、中央労働災害防止協会東京安全衛生教育センター外部講師)

### ありがとうございました

地方会長 能川浩二

地方会ニュース編集委員で、以下の方々が退任されました。

地方会ニュース発展のためご尽力下さりありがとうございました。ここにお名前を掲載し、御礼とさせていただきます。

伊藤岩美、宇佐見隆廣、沖野哲郎、川田智之、川名ヤヨ子、鈴木勇司、諏訪園靖、久内徹、廣尚典、榎元武 (50音順 敬称略)

## 研究室紹介

千葉大学大学院医学研究院環境労働衛生学

能川 浩二

当教室は現在教員 4 名、大学院生 9 名、委託研究生 1 名、技術職員 1 名、事務員 1 名で構成されています。カドミウム (Cd) の健康影響、産業保健、分子疫学を中心に研究しています。

Cd については、曝露 (尿中 Cd 濃度等) と腎障害 (尿中低分子量蛋白等) の間に量-反応関係が成立することを証明し、その応用として Cd 曝露量の耐容値を算出しています。さらに、近年開発されたベンチマークドーズ法を用いて、Cd 非汚染地域住民における Cd 耐容値の推算に取り組んでいます。

産業保健については、労働者の健康管理を多面的に行うための施策を確立することを目的として、一般的な健康診断に加え、生活習慣、労働条件、職業性ストレスなどについて調査を追加し、健康指標との関連性を検討しています。

また、遺伝子多型 (SNP) と生活習慣病との関連を中心とした分子疫学的研究にも取り組んでいます。現在、喫煙や飲酒等の生活習慣に加え、遺伝子多型を解析モデルに導入し、将来的には、個々人の SNP を応用した健康管理の有効性についても評価することを目標としたプロジェクトを立ち上げています。

予防医学の分野においては、重大な環境汚染による致命的な疾患から、一般集団における普遍的な疾患へと研究テーマが展開されつつあります。私達も現在、Cd 非汚染地域住民、企業労働者を対象として研究を展開しつつあり、予防医学を志し



た者として大いなる喜びと責任を感じております。

## 産業保健実践活動報告 (第 12 回)

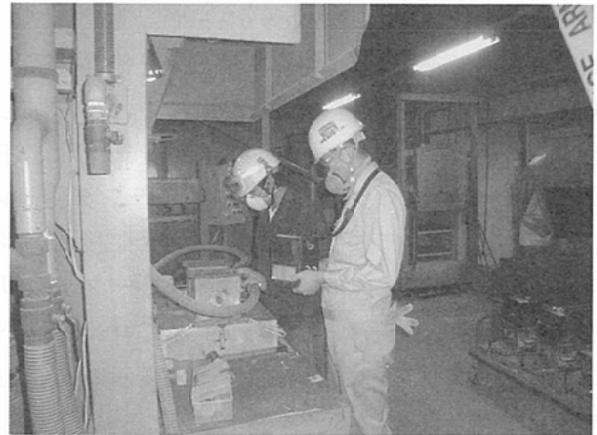
渡辺 武夫 (君津健康センター)

### 1. 機関の概要

(財)君津健康センターは、新日本製鐵株君津製鐵所において長年にわたり培われた労働衛生管理に関する知識と技術で、周辺企業および地域住民に貢献するため 1988 年 4 月に労働衛生専門機関として設立された。主に各種健康診断、作業環境測定などの労働衛生全般に関する事業を行なっている。

### 2. 作業環境測定機関として

2005 年 4 月から管理濃度が大幅に改正された。これにより、今までと同じ作業を行っているにもかかわらず、従来第 1 管理区分だった評価が第 2 管理区分、第 3 管理区分に移行した単位作業場所もある。どのような改善を行えば第 1 管理区分にすることができるのか、局所排気装置をも含めた衛生工学的改善手法をアドバイスするなど、各単位作業場所のフォローに力を注いでいる。



### 3. 今後の抱負

これからも作業環境の改善に繋がるような精度の高い作業環境測定を実施することは勿論のことである。しかし、現在日本で使用されている化学物質のうち、法令で作業環境測定を義務づけられているものは約 100 種類程度であり、実際にはそのほかに 6 万種類以上の化学物質が使用されている。今後はそのような法で義務づけられていない化学物質の有害性や、具体的な対策も含めた幅広い知識と分析方法・技術を身につけ、労働者が有害物にさらされないような快適な職場環境づくりにいっそう貢献していきたい。

## 会員の声

## 労働安全衛生法の一部改正

福田 洋 (順天堂大)

工藤光弘 (中災防)



2005年12月1日(木)～3日(土)に、国際産業保健学会(ICOH)の科学分科会のひとつ「産業保健サービス・調査・評価に関する科学分科会」の第13回大会が、獨協医科大学の武藤孝司学会長のもと栃木県総合文化センター(宇都宮市)にて開催されました。1992年のアムステルダム大会以来、ほぼヨーロッパで開催されて来ましたが、今回は記念すべき初のアジア開催であり、参加者数136名、一般演題も口演38題、ポスター47題と例年に劣らず盛況でした。メインテーマはEvidence-Based Occupational Health Servicesでした。EBMを産業保健にも応用し、エビデンスを国・セクター・職種を越えて共有しようという目的のもと、基調講演では、コラン共同計画産業保健フィールドや、北欧等でのEBMに基づく産業保健ガイドラインとその評価、EBMに関わる倫理などの話題が取り上げられました。また前日のPre-Congress Symposiumでは、午前中はヨーロッパ(フィンランド、オランダ、ベルギー、ドイツ、フランス、イギリス)、午後はアジア(中国、日本、マレーシア、タイ、オーストラリア)各国の産業保健サービスについてコンパクトに示され、現状の違いが認識でき大変示唆に富む内容でした。詳細はホームページをご覧ください。  
(<http://www.dckkyomed.ac.jp/dep-m/pub/ohs2005.html>)



写真 講演する武藤学会長

「労働安全衛生法等の一部を改正する法律案」が特別国会審議を経て可決され、2005年11月2日に改正法が公布されました。労働衛生に係りの深い項目は、①化学物質等に係る表示及び文書交付制度、②化学物質のばく露報告、③面接指導等、④安全衛生管理体制等、⑤特殊健康診断の結果の通知です。

①は国連が勧告しているGHSを受けて改正するもので、容器又は包装に危険有害性を表示しなければなりません。②は指定した化学物質の取扱い状況を労働基準監督署へ報告することを事業者が義務づけるもので、今まで法令上の規制がなされていなかった部分です。これらは、今後リスク評価を事前に行い、化学物質による健康障害を未然に防止しようとするための方策です。

③の面接指導では、法定労働時間(週40時間)を超えて行う労働が1月に100時間を超え、疲労の蓄積が認められる者について、本人の申出により産業医の面接を義務づけます。産業医は、申出の勧奨を行うことができます。また、面談結果は記録として5年間保存しなければなりません。④の安全衛生管理体制等の中で衛生委員会は、過重労働による労働者の健康障害の防止及び労働者の精神的健康の保持増進を図るための体策の樹立を審議事項とすることを求めています。⑤の特殊健康診断の結果は受診者に通知させることを検討しています。

これらのことは、本年4月から施行されます。その他、昨年7月1日に施行された石綿障害予防規則で定められている石綿作業主任者の選任は、現在、特化則作業主任者から選任されることになっておりますが、本年4月からは石綿作業主任者実務講習を受講した者の中から選任することに改正されます。

---

## 学 会 等 開 催 予 定

---

**第 232 回関東地方会例会**

日時：2006 年 2 月 18 日(土)13:00~17:30  
 場所：川崎市国際交流センター(川崎市中原区木月祇園町 2-2)  
 当番幹事：山内 博  
 (聖マリアンナ医科大学予防医学)

**第 233 回関東地方会例会・平成 18 年度総会**

日時：2006 年 6 月 10 日(土)13:00~17:00 予定  
 場所：東京慈恵会医科大学(港区西新橋 3-25-8)  
 当番幹事：鈴木勇司  
 (東京慈恵会医科大学環境保健医学)

**関東産業医部会 産業医研修会**

日時：2006 年 3 月 12 日(日)10:30~16:30  
 場所：東京慈恵会医科大学(港区西新橋 3-25-8)  
 申込方法：往復はがきにて申込(部会報告参照)

**第 76 回日本衛生学会総会**

日時：2006 年 3 月 25 日(土)~28 日(火)  
 場所：山口大学医学部(宇部市南小串 1-1-1 )  
 宇部市渡辺翁記念館(宇部市朝日町 8-1 )  
 宇部市文化会館(宇部市朝日町 8-1 )  
 宇部全日空ホテル(宇部市相生町 8-1 )  
 学会長：原田規章(山口大学医学部衛生学)  
 URL：http://eisei76.med.yamaguchi-u.ac.jp/

**第 79 回日本産業衛生学会**

日時：2006 年 5 月 9 日(火)~12 日(金)  
 2006 年 5 月 13 日(土)特別研修会  
 場所：仙台国際センター(仙台市青葉区青葉山)  
 企画運営委員長：佐藤 洋  
 (東北大学医学系研究科環境保健医学分野)  
 URL：http://ehs.med.tohoku.ac.jp/sanei79/

**第 13 回日本産業精神保健学会**

日時：2006 年 6 月 2 日(金)~3 日(土)  
 場所：都市センターホール  
 (東京都千代田区平河町)  
 運営委員長：中村 賢(北里大学医療衛生学部)  
 メインテーマ：  
 「人・組織・社会~その架け橋を求めて~」  
 URL：http://jsomh.umin.jp/

**編集後記**

新年あけましておめでとうございます。昨年はアスベスト問題や鳥インフルエンザ問題などが話題となり、産業衛生学会員は産業保健の専門家としてこれらの問題に的確に対応することが求められる年でありました。

毎年、平和な年となることを願っておりますが、何らかの問題が発生しその対応に追われるのが常となってしまっています。こういった問題への対処は自己研鑽のきっかけでもあり、仕事としてやり甲斐もあるのですが、それでも平和な年であることがやはり一番なので、性懲りもなく例年通りの願掛けをしております。(大久保)

昨年は夏ごろよりアスベスト関連記事がほとんど毎日、新聞に載るほど社会問題となりました。10 月には、衆議院解散で一度は廃案となりましたが、過重労働・メンタルヘルスに対応するため労働者の医師面接を義務付ける安衛法の改正が可決するなどの大きな産業保健関連のニュースがありました。一方、関東地方会では能川地方会長の新体制が軌道に乗ってきており、活気付いてきております。

本号では能川地方会長のご挨拶、3 部会の各部会長のご挨拶から始まります。更に研修会報告、産業保健実践活動報告、会員の声と内容は盛り沢山です。また「会員の声」ではご寄稿をお待ちしておりますので、是非とも宜しくお願い申し上げます。(宮越)

---

## 編集委員名簿

---

稲垣弘文、今井常彦、◎大久保靖司、小峰慎吾、坂田晃一、田中三千代、初見智恵、原美佳子、三浦善憲、宮越雄一、○宮本俊明、森田美保子、○山瀧一、山野優子、山本健也 (50 音順)  
 ◎編集委員長 ○事務局

MEET YOUR DELIGHT **JT**

アイスランド・スプリングついに日本上陸。



北欧アイスランドには  
澄み切った空気と  
美しい自然、そしてピュアな  
天然水がありました。

# íceland spring®

Natural Icelandic Spring Water

アイスランド・スプリングは、TDS・硬度が低いから、とってもピュア。

栄養成分 (100mlあたり) ①エネルギー 0kcal ②たんぱく質・脂質・炭水化物 0g ③ナトリウム 1.2mg ④カルシウム 0.44mg ⑤マグネシウム 0.03mg ⑥カリウム 0.05mg  
TDS (総溶解固形分) 58mg/L 硬度 (水のなかに含まれるカルシウムとマグネシウムの合計量) 15.0 mg/L (軟水) pH8.3 (アルカリ性) NSF International 2004 調査結果



お問い合わせ・お申し込みは、下記のお電話番号・インターネットでどうぞ。

お電話 ☎ **0120-38-3228**

各電話でお申し込みの際、申込番号B08とお伝えください。  
受付時間 9:00~18:00 (土・日・祝日も承ります) ●携帯電話からもご利用いただけます。  
●電話番号はおかけ間違いのないようご確認ください。

URL **インターネット・24時間受付** ▶ <http://www.icelandspring.jp>

キャンペーン価格 (税・送料込)	
1.5L×12本セット 1箱	→ <b>4,500円</b>
330ml×24本セット 1箱	→ <b>3,960円</b>

さらに お得なまとめ買い価格 (税・送料込)	
1.5L×12本セット 2箱	→ <b>8,750円</b>
330ml×24本セット 2箱	→ <b>7,750円</b>
3箱	→ <b>12,900円</b>
3箱	→ <b>11,200円</b>

**通販限定**

通信販売でお届けいたします。  
**アイスランド産天然水**

※定期お届けコースもございます。詳しくはフリーダイヤルまでお問い合わせください。  
■商品のお届けは受付翌日、遅くとも二日後にはお届けいたします。(離島および一部地域を除く)詳しくはお電話でお問い合わせください。■お支払いは代金引換またはクレジットカードでお願いいたします。■お客様のご都合による返品は、商品到着後7日以内でケース未開封の場合に限りお受けいたします。なお、ご返品の際の送料およびご返金に必要な手数料はお客様のご負担となります。■配達エリアは日本国内に限ります。

〈事業者〉日本たばこ産業株式会社 飲料事業部 〒144-0042 東京都大田区羽田旭町6-14  
アイスランド・スプリングは、日本たばこ産業株式会社100%子会社であるアイスランドスプリング・ジャパン株式会社を通じてお客様への販売(受注・配送・代金回収)を実施いたします。